

白神山地世界遺産地域モニタリング計画の改定について

1. モニタリング計画の見直し事項【資料2-2、資料2-3】

モニタリング計画の見直しについては第13回科学委員会までの議論を踏まえて、第14回科学委員会(以下本委員会)を経て、改定版の白神山地世界遺産地域モニタリング計画を作成する予定となっている。過去5年を中心としたモニタリング調査結果をまとめた「白神山地世界遺産地域モニタリング調査 概要シート」をもとに、科学委員からモニタリング評価、不足・不要事項の等について意見を頂いた。

この評価及び、不足・不要事項から、事務局でモニタリング計画の見直しを検討した内容を資料2-2「モニタリング評価と見直し内容」、資料2-3「モニタリング項目と評価指標の新旧比較表」に示す。実際にモニタリング調査を実施していく上では、予算や実施主体との調整もあるため、以下の点での優先度を考慮して検討した。

①OUVとの関係性が高いもの。

(植物群落の発達、遷移の過程を示すものとして、これに依拠する動物群集と併せて顕著な見本であることという遺産クライテリアとの関係を特に重視)。

②緊急度の高いもの。

③コストパフォーマンスと持続性の高いもの。

2. 白神山地世界遺産地域モニタリング計画(案)【資料2-4】

具体的な見直しの内容については、本委員会において意見を伺い確定するものであるが、これまでの経緯を含めて「白神山地世界遺産地域モニタリング計画(案)」を作成した。

本計画(案)については、モニタリング評価、具体的な見直しの必要なモニタリング内容等で暫定的な内容を含むもので、改定後のイメージとして提示するものである。なお従前のものからの変更点等が分かりやすいように、改定前と改定後本文を左右に並べて資料2-4に示す。変更点については、赤の囲みで示した。別紙等で示されるモニタリング項目、評価等については、改定後のもののみを示し、変更箇所等は赤字で示した。